
<とりっく小説> くらい女

松原 透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

<とりつく小説> くらい女

【コード】

N9859Y

【作者名】

松原 透

【あらすじ】

あるアパートでの出来事です。

(前書き)

文中の「くらい」「というひらがな表記には「暗い」という漢字を当てはめてお読みください(拝)

あとがきにて「とりつく」の解説してます。

ここは自分の住んでいるアパート。

そこにある家具はどれもいつもと同じ顔をしているのに、妙に現実味がない。

時間の感覚など、とつくに麻痺した。

いったいどれくらいの間、私はここにいるのだろう。

陽の光を拒絶した、狭くて寒い灰色の部屋で。

くらい、ただくらい。

私は時を過ごしていた。

グデュ…………ギシッ、ピチャ…………ポトン…………ゴリッ、ゴキッ…………ゴト…………。

無気味な音がする。

恐ろしい音だ。

ある意味、快樂。

私は傍にいる男を見つめた。

「山城、さん」

無意識に、その名を呼ぶ。

私は恋をしていた。

その姿を思い浮かべるだけで、今でも胸の奥がじわりと熱くなる。けれど、彼には家族があった。

叶わぬ恋と思えば思うほどに、胸を焦がす恋の炎は燃えあがっていった。

私はくらい女だ。

若いこと以外、取り柄などない。

知ってか知らずか、彼はそこに付けこんだのだろう。

ただひたすら肉体を貪った。

くらい、くらい、くらい、くらい、くらい……。

「警察だ！」

私がここに来てからずっと沈黙していたドアが勢いよく開かれた。

入って来た警察官たちは、部屋を満たす激しい異臭に一斉に顔を顰める。

ようやく終わる。

残念なようでほっとしたような、不思議な気持ちを味わった。

(後書き)

ここまで読んでいただき誠にありがとうございます。

とりつくですが、「暗い」を「喰らい」という漢字に変更すると、被害者が加害者になります。

……それだけ？

すみません、それだけです(汗)

ひとつの文章にふたつのストーリーというものに挑戦してみたかったのですが……ご期待させてすみませんでした！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9859y/>

<とりっく小説> くらい女

2011年11月29日20時49分発行